

きさべじょう 私部城跡調査速報展 解説資料 (1/3)

はじめに ～ 1. 文書から知る私部城

はじめに

交野の私部郵便局近くに、水田と畑に囲まれた小高い山があります。実はこれは、交野に残る戦国時代の「土の城」のあとです。大阪の平地に残る戦国時代の城跡は珍しく、貴重なものです。北河内を中心に戦国時代に活躍した安見氏の城であり、松永久秀や織田信長といった有名な武将が畿内の覇権をめぐって争った時に重要な城として機能していました。

今回は重要な文化財である城跡について①文書、②航空写真や地形、③発掘調査成果から紹介していきます。

1. 文書から知る私部城

・畠山高政の内衆安見右近が大和で活動をはじめ。永禄八年（一五六五）

○多聞院日記 永禄八年一〇月二四日条

廿四日、(中略)

一竹下釜口迄出陣了、トヒ山ノ麓ニテ合戦アリ、安見右近承衆五人討死云々、河州ニハ大煙見了、京へハ又諸牢人、云若州衆、打出之由沙汰在之、

※釜口は奈良県天理市内。トビ山は同桜井市内。

・遊佐信教が、松永久秀に安見右近の軍勢をあずける。(永禄八年か九年頃)

○遊佐信教書状 年末詳一二月一八日

夜前以書状申入候処、早々御返事祝着至候、仍安見右近承儀、先書如申候、長々被召置候御存分難計□□□□(委内々申)事候、於様躰者、佐但可被申分候、恐々謹言

十二月十八日 (遊佐) 教(花押)

松永弾正(久秀)少弼殿

御宿所

・奈良市中の合戦で安見右近が負傷する。永禄一〇年（一五六七）

○多聞院日記 永禄一〇年九月一〇日条

十日、今晚寅刻、高天郷寺内より焼了、追日終迄也、

一今朝多聞寺内衆城戸迄打出了、安見右近手負云々、井戸衆出向、五・六人手負在之云々、

・片野(交野)の城は堅固。元亀元年（一五七〇）

○信長公記 卷三

十月廿日、(中略) 南方三好三人衆の事、野田・福島の普請を改め、諸牢人、河内・摂津国瑞々々へ打ち廻し致すと雖も、高屋に畠山殿、若江に三好左京大夫・片野に安見右近、伊丹・塩河・茨城・高槻、何れも城々堅固に相抱え、

・安見右近が多聞城で殺される。元亀二年（一五七一）

○言継卿記 元亀二年五月一一日条

(五月)

十一日、壬申、天晴、(中略)

河州之八隅(安見)右近、昨日於多聞令生書云々、

・松永弾正父子（久秀・久通）、交野の城を攻める。元龜二年（一五七一）

○多聞院日記 第十七卷

十二日

論へ出了、久秀父子カタノへ出陣了、安見右近城雖責之不落之由也、如何、日中後唯識比談義了、

※松永久秀親子が交野へ出陣して、安見右近の城（私部城）を攻めたが、城は落ちなかった。

・三好左京太夫、松永弾正（久秀）、交野の城主安見新七郎を攻める。元龜三年（一五七二）

○信長公記 卷五

去程に、三好左京太夫殿非議を思食立、松永弾正・息右衛門佐父子と被仰談、对畠山殿既被及鉾楯候、安見新七郎居城交野へ差向、松永弾正取出を申付候、其時之大將として山口六郎四郎、奥田三川、兩人勢衆三百計取出に在城也

信長公より可討果之旨に而被遣御人数、佐久間右衛門・柴田修理亮・森三左衛門・坂井右近・蜂屋兵庫・斎藤新五・稲葉伊予・氏家左京亮・伊賀守・不破河内・丸毛兵庫・多賀新左衛門、此外五畿内公方衆を相加、為後詰御人数被出、取出を取巻、しゝ垣結まハし被置候処に、風雨の紛に切抜候之也、三好左京太夫殿ハ若江に楯籠、松永弾正ハ大和之信貴之城に在城也、息右衛門佐ハ奈良之多門に居城也

※三好左京太夫が松永久秀親子と共に謀して、河内守護畠山昭高に謀反を起こし、安見新七郎の居城（私部城）を攻めた。この時、信長は私部城を救うために、佐久間信盛・柴田勝家・森長可などの軍勢、総勢3万人に將軍家の加勢3千人を送って私部城を守った。なお、この時松永は砦を設けて私部城を攻めようとした。これに対して織田軍は、敵軍の砦の周囲に柵を造って囲う戦法を用いた。これはその後、織田軍がよく使った戦法の最も早いものである。後に、秀吉がこれを発展させて、備中高松城などを落とす戦法となった。

・元龜三年の私部城攻防戦に枚方寺内から出陣

○招提寺内興起後聞記并年寄分由緒記

寺内二孫左衛門尉久吉、母ハ摂津国佐原木村保田氏娘、天文十二癸卯十二月十二日誕生也、

天正二年甲戌八月二日卒去、法諡正栄、三十二歳、

同弟河端利右衛門尉恒久、永禄三年庚申十六歳ノ時、和州畠山紀伊守高政へ被召抱、元龜三壬申より河内国守護代遊佐河内守長教、同名越中守信教父子随テ、交野郡私部ノ城ニ而、三好義継・松永弾正等ト同国高屋ニテ合戦高名ス、此時廿八歳、天正二甲辰春、遊佐父子逆心シテ、主君畠山昭高ヲ殺ロシテ奪家、此時恒久三十歳也、依之浪人シテ蟄居ス、武を遁テ泉劔大鳥郡湊村ニ住ス、子孫アリ、

・織田信長が安見新七郎所（私部城）で休憩する。

・天正六年（一五七八）

○信長公記 卷十一

寅十月朔日、住吉より御帰洛。安見新七郎処で暫く御休息なされ、二条御新造に至つて御帰。

※安見新七郎は、天正九年（1581）に行われた織田信長の京都馬揃（騎馬などからなる軍団によるパレード）に召集されている。またこのとき、地域の中小領主層を束ねる「取次者」であることが『立入文書』に記されている。このように織田政権の末期まで活躍しているが、豊臣政権になると交野の安見氏の名は見られなくなる。

・私部城を後家か城と呼ぶ

○河内国一國村高控帳（正保郷帳）

交野郡 高式万千七拾三石式斗九升七合

後家か城と云ハ私部村ニ有、小松寺星田村也
渚村か西村図書と云侍此城ニ籠りたりと云也



私部城 本郭（北から）

（平成 25 年 1 月 9 日 財団法人交野市文化財事業団 作成）

2. 地形と航空写真から知る私部城

・地形観察からつくられた私部城の縄張り図

私部城は、その姿を現在も観察できる数少ない大阪の平城です。

この地形を観察して、中井均先生がはじめて私部城の「縄張り図」を作成されました。「縄張り」とは、城のパーツの配置を決める設計のことです。城の設計を検討するとき、実際に縄を張ったことに由来するともいわれます。私部城を描いた当時の絵図はみつかっておらず、まだ城跡の様子がよく残されていた時代に作成された縄張り図は重要な資料となっています。

これをみると「郭」という広い高台が少なくとも3つ東西に並んでいます。ここは戦いの陣地となる城の中心部です。郭の周りには土塁や堀もめぐっています。この私部城の縄張りは、「連郭式」とされ、東日本の中世城郭と似ているともいわれます。ただ、大阪では戦国時代の平城が少ないこともあり、どのような理由でこの縄張りができたかははっきりしていません。なお、現在推定されている私部城のすぐそばには、山根街道と私部街道という二つの古い街道が近接しておっており、交通に便利な場所を選択して城が築かれたことがわかります。

・航空写真にうつる私部城跡

交野周辺をうつした航空写真として、現在確認できるものでは、昭和23年に米軍が撮影したものが最も古いものです。こうした写真では、水田などの低地に囲まれた私部城の郭の形を、現在よりはっきりとみることができます。私部城跡の周辺では近年大きく開発が進み、盛り土されたり、家などの建物が建てられたりして、城の本来の姿はわかりにくくなっています。こうした写真は、かつての城跡をうかがい知る大事な手がかりとなっています。

・中世の「土の城」と近世の「石の城」

城といえば、大坂城のような壮大な天守や、瓦屋根の建物、堅固な石垣をイメージする方が多いでしょう。この城は「石の城」とも呼ばれ、戦国時代末期に織田信長が安土城を築いた後、近世に定着します。実は、室町時代から戦国時代の真ただ中では、私部城のような「土の城」が一般的でした。

私部城が歴史に記されるのは、「土の城」から「石の城」へ大きく変わっていく頃です。この日本の城の歴史上、重要な時期の城です。さらに、平城の多くが失われた大阪府で、私部城の姿が保たれているのはとても貴重なことです。

・現在も残る私部城のあと

戦国時代の平城をここまで見て歩くことができるのは、大阪では私部城だけです。

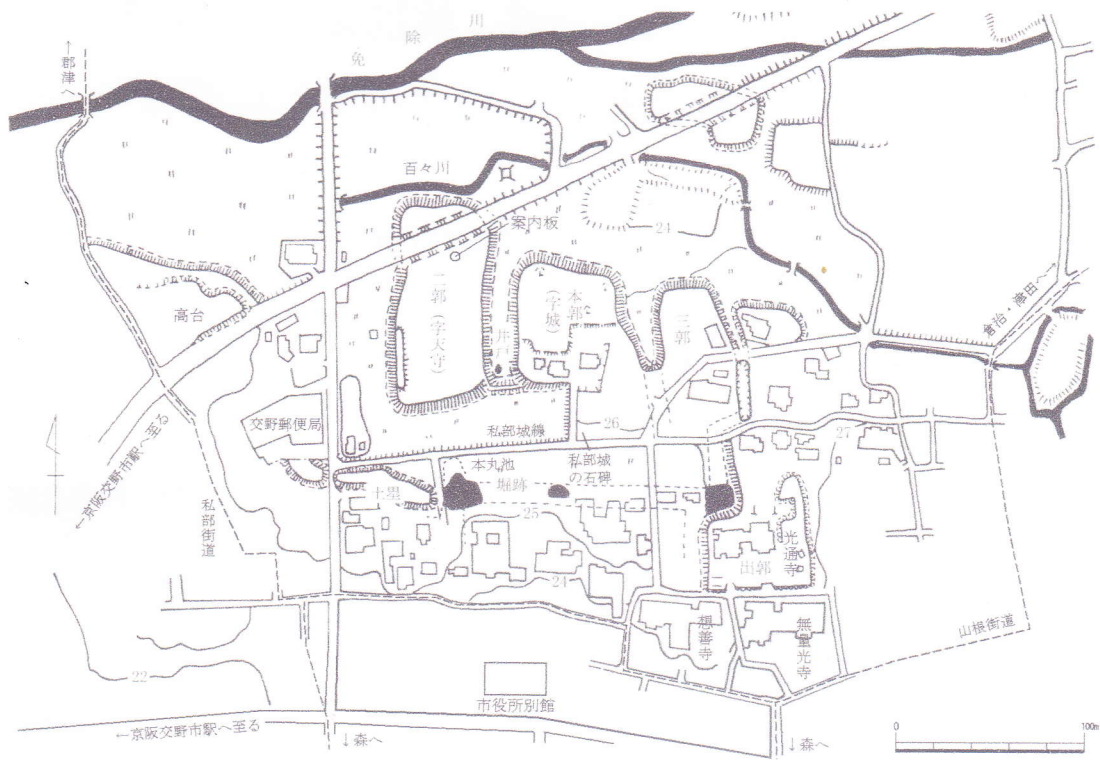
本郭 「郭」とは戦いの陣地となる平坦な高台です。「丸」とも呼ばれ、城の中で中心となる部分です。戦国時代の「土の平城」の姿がよく残っています。ここには「城」という字名が残っています。

二郭 もっとも大きな郭です。一部破壊を受けながらも大部分は残ります。「天守」という字名があり、物見やぐらなどの高い建物があった名残かもしれません。なお、私部城の案内看板がたてられています。

その他の郭 開発によりわかりにくくなっていますが、三郭などその他の郭状の高台も多くありました。現在の光通寺の付近は、城の南東隅に張り出した「出郭」だったとみられます。なお、光通寺の東には「市場」という地名も残ります。城とどのような関係があるのか興味深いところです。

堀跡 二郭の南にある「本丸池」は堀の跡といわれています。城の北には「百々川」があり、不自然な屈曲部があり堀跡とみられます。その北の免除川も城を守る天然の要害となったとみられます。

土塁 本丸池の西から、現在の交野郵便局付近まで続く竹やぶが郭を守った土塁のあとです。



私部城跡（交野城跡）の縄張り図（中井均先生作成図に一部加筆）



昭和 36 年撮影の私部城周辺の航空写真

(平成 25 年 1 月 9 日 財団法人交野市文化財事業団 作成)

3. 発掘調査から知る私部城 ～ おわりに

現在実施中の範囲確認ための発掘調査などの成果を紹介します。

・本郭の調査 (1994 年度第 1～3 調査区)

1994 年度に、私部城の保存を目的として本郭が調査されました。特に面白い成果は、第 2 調査区で発見された大きな穴から出土した、多くの石や石造物、石臼、瓦などです。これは、安見右近が光通寺を破壊した時のガレキが集めて捨てられたものとみえています。ただ、中心部の郭から出土した点などで城の建物に使われた可能性もうかがわせ興味深いものです。



石・石造物・瓦出土土坑

・二郭周辺の調査 (1977 年度・2011 年度 1 次ほか)

二郭を横断する道路工事の時に調査されました。二郭の北半で、けずられた郭の壁を観察したところ、白っぽい粘土のかたまりなど、さまざまな種類の土が混じる層が 1m 以上、2m 近くたまっていました。これは、古くからある高台の地盤の土の特徴とは大きく異なり、人間の手で土をぶあつく盛り土した結果とみられます。2011 年度にはその南も調査され、この盛り土が二郭の中ほどまで続くことがわかりました。自然の地形を利用しつつも必要な部分には大変な土木工事をしながら城が築かれていることがわかります。



二郭盛土の断面

・私部城の東端か、光通寺の遺構か (私部城跡 2012 - 2 次調査)

三郭東にある高台で、郭ともみられてきた範囲です。土地を区画したとみられる幅の広い溝が発見され、その西側では、柱穴や溝などのあとが多く発見されました。この幅の広い溝の方位が現在の町の区画に近いことから、私部の町並みの起源が江戸時代より前にある可能性も考えられます。すり鉢や瓦器片など中世の生活用の土器・陶磁器のほか、中世の瓦片も後世の遺構に混じるなどして出土しています。これらは私部城か、それ以前に私部で栄えていた光通寺のいずれかに関わるものとみられます。



中世の区画溝

・二郭北西の郭状の高台と建物跡 (私部城跡 2012 - 3 次調査)

二郭の西に幅 5～6m、人が埋まるほどの深い溝があり、さらにその西で、郭のような高台を確認しました。戦国時代には見晴らしがよかったですでしょう。現地地形から予想できない意外な成果でした。この高台の上では、柱穴が 4 か所、正方形にならんで発見されました。高台の上の建物の隅の部分とみられます。中に拳大の石を複数入れたものもあり、礎石も備えていたかもしれません。江戸時代以前のものともわかりますが、詳細は検討中です。



郭状の高台上の建物跡

・土塁と本丸池の調査 (2012 - 4 次調査)

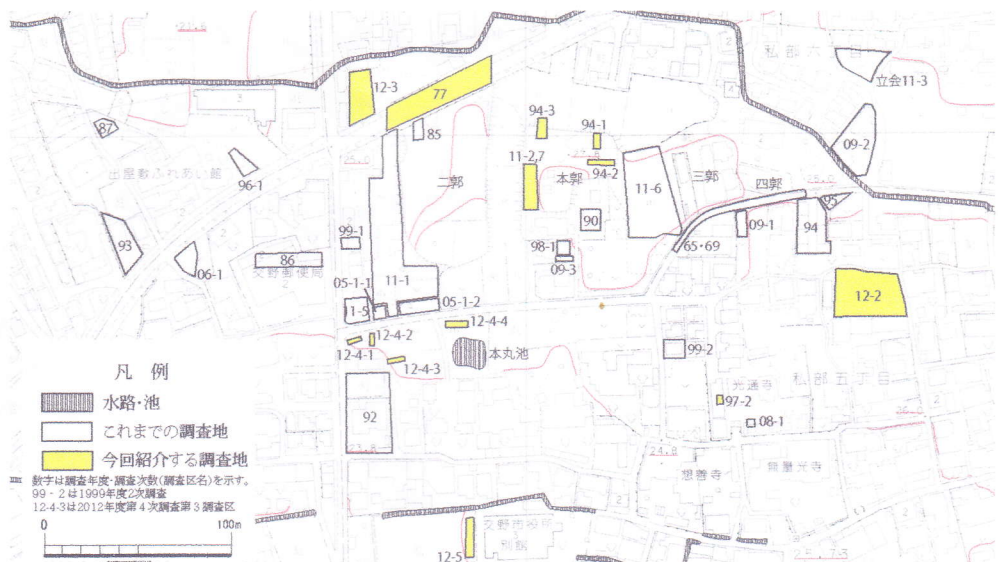
二郭の南、交野郵便局の近くに残る土塁を調査しました。土塁の上部は竹やぶの根や土おこしにより破壊されつつも、土塁の盛土が良好に残されています。古くからの地盤の層の上に、質の異なる土を交互に盛って、長く高い土塁がきずかれていました。土塁の盛土の下からは、穴や溝の遺構



土塁下層出土の瓦器碗

と中世の^{がきわん}瓦器碗などが出土し、土塁ができた年代や土塁ができる前の中世の私部の様子を知る手がかりもえられました。

また、本丸池の一部を掘り下げ、幅7mほどの堀のあとを確認しました。この堀が掘り込まれていた^{ちそう}地層の観察からは、自然の谷地形を利用して、本丸池付近の堀がつけられた可能性が高くなりました。



私部城跡の調査地点

・私部城の下に眠る^{やよいじだい いせき}弥生時代の遺跡 (私部城跡 2011 - 7次調査ほか)

1965・1969年度の調査で弥生土器片や石庖丁が出土し弥生時代のムラがあったことが知られてきました。そして、2011 - 7次調査で私部城下層で初めて弥生時代の^{たてあな}竪穴建物が発見され、2012 - 2次調査でも建物のあとがみつかりました。私部城跡は弥生時代の大事な遺跡でもあるのです。



11 - 7次竪穴建物

・光通寺境内の調査 (1997年度2次)

光通寺は、私部城ができる前、^{むらまちじだい}室町時代に栄えた寺院です。^{やすみうこん}安見右近により戦国時代に破壊された後、江戸時代に今の場所に再建されました。今の光通寺がある高台は城の南東隅の重要な陣地、「出郭」とされます。この発掘では、16世紀代頃の瓦が廃棄されたように穴から多く出土しました。光通寺の瓦とみるのが有力ですが、私部城の建物に利用された可能性も残る興味深いものです。



光通寺境内出土鬼瓦

おわりに

私部城は古い文書に戦国時代に台頭した安見氏の城としてあらわれ、織田信長や松永久秀らの争いの舞台となったと記されます。戦乱の舞台となった城の姿が航空写真や現地地形に残されていることはとても貴重なことです。現在も実施中の発掘調査では、文書に記されていない中世の私部と城の姿が少しずつ明らかになっています。この展示が、私部城についてより広く知られるようになるきっかけとなれば幸いです。

私部城跡調査速報展 展示品一覧表

1. 文書から知る私部城	3. 発掘調査から知る私部城
私部村絵図 (江戸時代後期)	1994年度調査 軒丸瓦、軒平瓦2点、土師器皿5点、石白 (上白・下白)、瓦質盤、銭貨2点、焼けた瓦片2点、焼けた石
私部村田畑絵図帳 (宝暦12年 1762)	2012年度2次 備前播鉢、瓦質鉢、丸瓦、銭貨2点、焼けた壁土・石
【パネル展示】後太平記 (元禄5年 1692)、多聞院日記、遊佐信教書状、信長公記 卷三、言継卿記 元龜二年五月一日条、招提寺内興起後聞記	2012年度3次 石杵、煙管吸口
并年寄分由緒記、河内国一国村高控帳 (正保郷帳)	2012年度4次 瓦器碗、土師器皿
2. 地形と航空写真から知る私部城	2011年度7次 磨製石斧、砥石、敲石
昭和23年米軍航空写真 (国土地理院提供)	私部城跡採集品 硯、銅盃、天明7年銘平瓦、宝篋印塔
昭和36・平成6年交野市撮影航空写真	1997年度2次 軒丸瓦2点、丸瓦2点、軒平瓦2点、平瓦2点、鬼瓦